安曇野市版

レッドデータブック 改訂版

AZUMINO CITY RED DATA BOOK 2024

概 要 版

『安曇野市版レッドデータブック改訂版2024』では、安曇野市の特徴である「豊かな自然」を守っていくことを目的として、2014年に発行した『安曇野市版レッドデータブック2014』を再整理し、次の内容をまとめました。

- 安曇野市に生息・生育する「絶滅のおそれのある野生生物」
- 安曇野市の自然環境に大きな影響を与える外来生物など（「注意すべき生物」）
- 安曇野市の「重要な自然環境」

安曇野市

生物多様性が豊かな安曇野市

● 高山帯

燕岳、大天井岳、常念岳や蝶ヶ岳などの北アルプスの稜線部の高山帯は、1年を通じて気温は低く、風も強いためハイマツやコケモモなど背の低い植物が生育します。

ライチョウや高山チョウなど、氷期に北から移動してきて間氷期に冷涼な高山にとどまった動植物がみられます。

● 亜高山帯

北アルプスや有明山などの亜高山帯には、コメツガやシラビソなどの常緑の針葉樹を中心とした森林が広がり、日光が届きにくいため林内は暗くなっています。

オサバグサ、キクイタダキ、ヒメキマダラヒカゲなどがみられます。

● 山麓・平野部

私たちが生活する住宅地や学校、そして周りにある農耕地、社寺林なども安曇野市の自然環境の一部であり、里地とも呼ばれます。

穂高牧などの農耕地では、アマナ、ワレモコウ、ギンヤンマなどがみられます。また潮神明宮などの社寺林には、チゴユリやムササビなどがみられます。

安曇野市を南から見たイメージ図

・大天井岳は「おてんしょうだけ」、有明山は「ありあけざん」「ありあけさん」とも呼ばれます。　・標高の区分はおおよそのものです。

安曇野市には、標高3,000m近い高山から標高約500mの平野、河川や湧水などの水辺といった変化に富んだ自然環境があり、それらの環境ごとに多様な動植物がみられます。

多様な環境に、多くの生き物が関わり合ってくらしている「豊かな生物多様性」をもつ安曇野市の自然環境を守っていくためには、それらの環境の様子や希少な動植物などについて理解を深めていくことが大切になります。

● 山地帯

長峰山や光城山、室山などの山地帯は、人が管理しているアカマツやコナラの林などを中心に、一部には草地がみられ、里山とも呼ばれます。最近、長峰山など市の東山の地域ではマツ枯れが発生し、広い範囲のアカマツ林が枯れたことが心配されています。

コナラ林などには、カタクリやヒメギフチョウなど明るい林を好む動植物が生息・生育します。また、長峰山などにある草地は、開けた草地を好む動植物の貴重な生息・生育場所となっています。

● 河川・水辺

市内には、北アルプスを水源とする中房川や烏川、東側の筑摩山地を水源とする潮沢川などが流れ、犀川、高瀬川、穂高川が合流する三川合流周辺は湧水地帯となっています。

河川上流部には冷たくきれいな水を好むイワナが生息し、湧水地帯にはホトケドジョウやバイカモなどの希少な動植物がみられます。

安曇野市版レッドリスト

レッドリストとは

安曇野市版レッドリストは、市内で絶滅のおそれのある種や、今後絶滅の危険性が高まる可能性がある種をまとめたリストです。

レッドリスト種の区分

2014年版のレッドリストをもとに、この10年間の調査記録の整理、補足的な現地調査を行い、その結果にもとづいて、絶滅の危険性に応じた6つの区分でレッドリスト種を選びました。

安曇野市版レッドリストの区分

EX	絶滅 Extinct	過去に安曇野市に生息・生育したことが確認されていたが、市内においては飼育・栽培しているものも含め、既に絶滅したと考えられる種
EW	野生絶滅 Extinct in the Wild	過去に安曇野市に生息･生育したことが確認されていたが、市内において飼育・栽培しているものは存続しているが、野生では既に絶滅したと考えられる種
CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered and Endangered	安曇野市内において、個体群が危機的水準にまで減少している、生息・生育地の条件が著しく悪化しているなど、絶滅の危機に瀕している種
VU	絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable	安曇野市内において、大部分の個体群で個体数が大幅に減少している、大部分の生息・生育地の条件が明らかに悪化しつつあるなど、絶滅の危険が増大している種
NT	準絶滅危惧 Near Threatened	安曇野市内において、個体数が減少している、生息･生育条件が悪化するなど、存続基盤が脆弱な種
DD	情報不足 Data Deficient	安曇野市内において、生育･生息密度が著しく低いなど、環境条件の変化によっては絶滅危惧のカテゴリーに移行すると考えられるが、評価するだけの情報が不足している種

レッドリストに選ばれた動植物の種数

安曇野市版レッドリスト2024では、植物320種、動物397種の合計717種が選ばれました。

2014年版のリストに比べて、植物は342種から320種へと減少しましたが、動物は332種から397種へと増加しました。リスト全体では、2014年版の674種に対して43種増加しました。

安曇野市版レッドリスト掲載種数

分類群	区分						合計	
	絶滅	野生絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足	**2024年版**	2014年版
植物	11	0	94	83	69	63	**320**	342
動物	17	3	53	83	182	59	**397**	332
哺乳類	1	0	3	2	10	3	**19**	14
鳥類	0	0	14	5	8	8	**35**	33
爬虫類	0	0	0	0	0	3	**3**	2
両生類	0	0	0	2	4	1	**7**	6
魚類	0	3	1	2	5	1	**12**	11
昆虫類	16	0	32	71	144	41	**304**	252
貝・甲殻類	0	0	3	1	11	2	**17**	14
合計	28	3	147	166	251	122	**717**	674

レッドリスト種と減少要因

レッドリストに選ばれた種のうち、いくつかを紹介します。私たちにとって比較的身近な場所である里地里山、河川・湧水に生息・生育する動植物の中にレッドリスト種が多いことが明らかになりました。

植物 レッドリスト種 320種

草地や水田の植物

かつて里地里山で普通に見られた草地環境は、人の手が入らなくなったことによる森林化やニホンジカの増加で大きく減少しており、そこに生えていた植物も少なくなっています。

また昔ながらのぬかるんだ水田（湿田）は、圃場整備によって水はけの良い乾田に置き換わり、生育する植物の種類が変わったほか、外来種も増加しています。

ユウスゲ CR+EN

100～150cmほどの高さで、主に草地で見られます。花はレモンイエローで少し香りがあり、7～9月の夕方に咲いて、翌日の午前中には閉じます。

スズサイコ VU

40～100cmほどの高さで、7～8月に星のような形の花を咲かせます。草地や古くからある農地の土手の草地などで見られます。

アゼナ CR+EN

5～20cmほどの高さで、8～10月にうすい紫色の花を咲かせます。小さな植物で、昔ながらの水田の畔などに生えるため、限られた場所にしか残っていません。

湿地や湧水地の植物

水辺では、開発や周囲の森林化などで湿地の植物の生育場所が減っているほか、湧水地では環境の変化に伴って外来種が侵入しやすくなり、植物の置き換わりが進んでいます。

エビモ NT

水の中に生える水草の仲間で、平野部の湧水が流れる水路で見られます。7～8月に水上に茎を伸ばし、小さな花を咲かせます。

カワヂシャ CR+EN

10～50cmほどの高さで、湧水地やワサビ田などで見られます。花は5～6月に咲き、白色で小さく、よく見ると紫色の模様があります。

サワギキョウ VU

50～100cmほどの高さで、山地の湿地などで見られます。8～9月に紫色の花を咲かせます。

●標本と現地調査が明らかにした植物の分布と変化

植物の改訂では、安曇野市豊科郷土博物館が2016年から行っている植物の分布調査や博物館などに収蔵されている標本の確認作業に加え、新たに北アルプスの山地帯や湧水地における調査により、市内に生育する植物の種数やその分布を、できるだけ正確に把握するようにしました。

これらの調査により、スズメノテッポウやノミノツヅリなどのかつての普通種が大きく減少しつつあることが分かってきました。一方、ヒンジガヤツリ、オオタチヤナギなどの市内では絶滅したと考えられていた種が見つかっており、それらの結果を新しいレッドリストにも反映しました。

ヒンジガヤツリ

哺乳類 レッドリスト種 19種

レッドリスト種の多くは森林に生息する種であり、アズミトガリネズミやヤマネのような種が、すみかとなる森林が減少することや子育てに使う木の穴がある大きな木が伐られたりすることなどの影響を受けています。

また、新たに市内に生息することが分かったユビナガコウモリなどのコウモリの仲間は、市内の生息場所が限られていることから、生息場所が無くなってしまうと大きな影響を受けることが心配されます。

アズミトガリネズミ VU

9～12cmほどの大きさで、北アルプスの亜高山帯から高山帯の森林などで昆虫などを食べてくらします。北安曇郡で発見されたことから「アズミ」の名前がつけられました。

ヤマネ NT

11～14cmほどの大きさで、山地帯から亜高山帯の森林で昆虫や植物の実を食べてくらします。木の穴を巣やねぐらにします。冬は冬眠します。

ユビナガコウモリ NT

10～13cmほどの大きさで、山麓から山地帯の森林などでくらします。夜に飛び回りながら昆虫を食べます。洞くつや使われなくなったトンネルなどをねぐらに使います。

鳥類 レッドリスト種 35種

レッドリスト種は、森林に生息する種や河川などの水辺に生息する種が多くなっています。またこれらの種の多くは、日本には繁殖のために渡ってくる夏鳥です。

アオバズクやブッポウソウは、森林の減少や子育てに使う木の穴がある大木が伐られることなどによる影響を受けています。

また河川などの水辺では、ササゴイ、コサギのような小さい魚を食べる種類が餌を探す場所となる水深の浅い岸辺が減少したり、小魚が外来の魚類などに食べられてしまい餌不足になるなどの影響を受けています。

アオバズク CR+EN

30cmほどの大きさの夏鳥で、山麓・平野部の社寺林や山地帯の森林でくらします。夜行性の種で昆虫などを食べます。木の穴を巣に使います。

ブッポウソウ CR+EN

30cmほどの大きさの夏鳥で、山麓部から山地帯の森林でくらします。安曇野市では最近観察されるようになりました。木の穴を巣に使います。

ササゴイ CR+EN

50cmほどの大きさの夏鳥で、河川や湖沼、湿地などでくらし、水深の浅い岸辺などで魚を食べてくらします。川沿いにあるヤナギなどの木に巣を造ります。

●人目につかない哺乳類・鳥類の調査

小型の哺乳類や夜行性鳥類など、人目につかない動物の生息状況を、地域の方々と協力して明らかにしました。小さなモグラの仲間であるトガリネズミ類は、山小屋などで見つかることがあることから、山小屋関係者に情報提供をお願いしました。その結果、これまで見つかっていたよりも標高の低い山地帯で、アズミトガリネズミが確認されました。また、夜行性鳥類の調査では信州野鳥の会との共同調査によって、コノハズクやアオバズクといったフクロウの仲間が、市内でも非常に限られた場所にしかいないことを突き止めました。

コノハズク

爬虫類 ― レッドリスト種 3種

レッドリスト種に選ばれたのは、山麓・平野部から山地帯にかけて生息するヘビの仲間です。いずれの種も見つけることが難しく情報が少ないため、市内ではこれらの種がどのくらい生息しているか、あるいはどのくらい減少しているのかなど、くわしいことは分かっていません。

タカチホヘビ DD

30～60cmほどの大きさで、山地帯の森林で主にミミズを食べてくらします。夜に活動し、昼間は石や落ち葉の下で休んでいます。

シロマダラ DD

30～70cmほどの大きさで、山麓・平野部から山地帯でくらします。夜に活動し、トカゲやほかのヘビ類を食べてくらします。

ヒバカリ DD

40～60cmほどの大きさで、山麓・平野部から山地帯でくらします。河川沿いの森林や水田など水辺の場所を好み、カエルなどを食べてくらします。

両生類 ― レッドリスト種 7種

レッドリスト種に選ばれたのは、山麓・平野部の水田でくらすカエルの仲間や山地帯の渓流や高山帯の池でくらすサンショウウオの仲間です。そのうち、トウキョウダルマガエルやトノサマガエルは、すみかとなる水田が減っている影響だけでなく、両種の雑種が増えていることが心配されています。

ツチガエル類 VU

3～6cmほどの大きさで、山麓・平野部の河川や水路、水田などでくらします。昆虫を食べ、特にアリを好みます。最近、ツチガエル類は2種に分けられました。

トウキョウダルマガエル VU

4～9cmほどの大きさで、山麓・平野部の水田などで昆虫を食べてくらします。同じ水田でくらし、よく似た別種のトノサマガエルと雑種をつくることがあります。

モリアオガエル DD

4～8cmほどの大きさで、山地帯の森林で昆虫を食べてくらします。森に囲まれた池で、水辺に張り出した木の枝に白い泡のような卵塊を産みます。

●市民の情報で見つかった爬虫類・両生類

爬虫類や両生類では、市民からの情報提供によって、希少な動物が確認されることもありました。生息情報の少ないシロマダラというヘビは、分かりやすい特徴的な模様をしていることから、市民への情報提供を呼びかけたところ、穂高で撮影された画像が寄せられました。また、モリアオガエルはこれまで市内では生息が確認されていませんでしたが、2022年の環境フェアの来場者によって卵塊の写真が寄せられました。そこで、2023年に現地を調査したところ、2か所で卵塊と成体が見つかり、市内で初めての生息確認となりました。

モリアオガエルの卵塊

魚類 レッドリスト種 12種

レッドリスト種に選ばれたのは、ニッコウイワナやカジカのような河川中流から上流にかけてくらす種や、ホトケドジョウやスナヤツメのような湧水が流れる河川や用水路などでくらす種など、きれいで冷たい水を好む種が中心です。これらの種は水が汚れてしまうことや、湧水が流れる用水路などが改変されてしまうことの影響を受けています。

ホトケドジョウ VU

6～8cmほどの大きさです。山麓・平野部の湧水が流れる小さい川や用水路などで、水生昆虫などを食べてくらします。

アカザ VU

10cmほどの大きさで、山麓・平野部を流れる河川中流から上流で、水生昆虫などを食べてくらします。背中の鋭いトゲに刺されると痛いことから「サソリ」とも呼ばれています。

スナヤツメ類 NT

20cmほどの大きさで、山麓・平野部の湧水が流れる河川中流や用水路で水生植物などを食べてくらします。最近、市内にはスナヤツメ類が2種いることが明らかになりました。

昆虫類❶ レッドリスト種 304種

草地の昆虫類

かつては、家畜の餌や田畑の肥料に使う草をとる草地が市内の各地に広がっていました。今では、畜産や肥料に草以外のものを使うようになったため、草地はほとんどみられなくなりました。そのため、草地にくらすチョウやバッタの仲間が影響を受けています。

アカセセリ CR+EN

翅を広げると3cmほどの大きさになります。山地帯の草原をすばやく飛び回りながら、花の蜜を吸ってくらします。幼虫はヒカゲスゲという植物を食べます。

ハネナガイナゴ VU

2～4cmほどの大きさです。水田の周りなどの湿った草地で植物を食べてくらします。時には、水田のイネを食べる被害を起こすこともあります。

ミヤマシジミ VU

翅を広げると2～3cmほどの大きさになります。河川沿いや山麓部の林の脇にある草地で花の蜜を吸ってくらします。幼虫はコマツナギという植物を食べます。

●湧水が育む魚たち

安曇野市を特徴づける水辺環境としては湧水環境が挙げられます。そのような場所に生息する魚類として、ホトケドジョウやスナヤツメ類を確認しました。ホトケドジョウは「安曇野市生きもの調査」の対象種にもなっており、今後も変化があるかどうか見守っていきたい魚です。

●新たに見られるようになった昆虫類

新たにレッドリストに加わったマルタンヤンマやマダラバッタ、ホソバセセリなどは、近年になり初めて安曇野市で記録された昆虫です。これらの種がなぜ安曇野市で見られるようになったかはまだ分かっていませんが、種ごとに理由があると考えられます。その理由を明らかにするためには、今後も分布の移り変わりを追跡することが必要です。

昆虫類❷

水辺の昆虫類

トンボやゲンゴロウ、ホタルの仲間などは池沼や河川、それに湿地や水田などでくらしています。最近は、池沼の減少、河川や用水路の岸辺を増水などで壊れにくいような形に改変するようになり、水辺でくらす昆虫が影響を受けています。

ハッチョウトンボ EX

成虫は2cmほどの大きさで、山麓・平野部の湿地などでくらします。市内では穂高牧の湿地に1980年代までみられましたが、現在は絶滅したと考えられます。

ゲンゴロウ VU

成虫は4cmほどの大きさで、山麓・平野部から山地帯の池沼や湿地などで、小さな水生動物を食べてくらします。水中を泳ぐことが得意なほか、空を飛ぶこともできます。

ゲンジボタル VU

成虫は1.5～2cmほどの大きさで、山麓・平野部の林と接した小さな河川や用水路沿いでくらします。オスは夜になると、メスを呼ぶためにおしりのあたりを青白く光らせます。

貝類・甲殻類等 ―レッドリスト種 17種

貝類・甲殻類のレッドリスト種のほとんどは貝類です。水辺やその周りの草地でくらす種では、環境の変化によって生息地が減ってしまうことが心配されています。

新たに市内に生息することが分かったコウフオカモノアラガイのような小さな貝類は、見分けることが難しく、詳しく調べられていない生きものであるため、まだ見つかっていない種や生息地があると考えられます。

コウフオカモノアラガイ CR+EN

7～8mmほどの小さな巻貝で、湿った草地などでくらします。近年になって、新たに市内で見つかりました。全国的にも限られた場所でしか見つかっていません。

カタマメマイマイ CR+EN

5～7mmほどの小さなカタツムリの仲間です。河川敷の草地や林でくらします。穂高川の河川敷などで見つかっています。

マルタニシ VU

6cmほどの大きさで、全体的に丸みのある形をしています。水田や池沼でくらし、昔は食用としても親しまれていました。

マダラバッタ

●見分けが難しい貝類の記録

貝類は外見での区別が難しい種もあり、まだまだ研究途上のグループです。例えば、新たに情報不足（DD）として加わったコシダカヒメモノアラガイとされる種には、見た目がそっくりな在来種と外来種の２種が含まれているとされ、安曇野市にいるものがどちらなのか、今後の調査・研究が待たれます。

コシダカヒメモノアラガイ

注意すべき生物

注意すべき生物とその影響

安曇野市版レッドデータブックでは、安曇野市の自然環境に影響を与える可能性のある外来種や分布を拡大している在来種を「注意すべき生物」として掲載しています。2024年版では、最新の状況を踏まえて2014年版に新たな種を追加し、植物22種、動物38種の注意すべき生物を掲載しています。

●外来種

外来種とは、国内外を問わず、もともといなかった地域へ人の手によって持ち込まれた生きもののことです。これらの中には、持ち込まれた先の環境に様々な影響を引き起こしてしまう種がいます。

●分布を拡大している在来種

もともと生息・生育していた在来種でも、個体数が大きく増えると、自然環境に様々な影響を及ぼす場合があります。

注意すべき植物 22種

注意すべき植物による自然環境への影響は、在来植物との生育場所をめぐる競争、近縁な在来植物と外来植物との交雑などがあります。

オオハンゴンソウ

高さが最大3mになる北アメリカ原産の植物です。7～10月に黄色い花を咲かせます。安曇野市では山地の林道沿いを中心に分布が広がっており、在来植物の生育域を縮小させることが心配されています。栽培や持ち運びが禁止される「特定外来生物」に指定されています。

アレチウリ

つる性の植物で、河川敷などに群落をつくります。北アメリカ原産で、日本へは移入された大豆に混じって侵入しました。五角形の葉と星形の白っぽい花が特徴です。成長が早く大きく拡がるため、在来の植物を減らしてしまいます。特定外来生物に指定されています。

オオカワヂシャ

高さ30～100cmほどのヨーロッパ原産の植物です。河川や湧水地などの水辺で普通に見られます。同じ環境にはもともと在来の絶滅危惧種カワヂシャが生育していましたが、生育場所をめぐって争ったり、交雑することによってオオカワヂシャに置き換わっています。特定外来生物に指定されています。

シラホシムグラ

ヨーロッパ原産の植物です。4～6月に小さな白い花を咲かせます。近年、市内各地で増加していることが分かり、特に河川敷や農耕地周辺で多く見られます。近縁な在来植物であるヤエムグラとの置き換わりが心配されています。ヤエムグラは2024年版で新たに安曇野市版レッドリストに選定されましたが、シラホシムグラが増えたことがその一因です。

注意すべき動物

38種

注意すべき動物による自然環境への影響は、在来種の捕食・採食、生息場所をめぐる競争、近縁な在来種と外来種との交雑などがあります。

アカボシゴマダラ

中国や朝鮮半島などが原産のチョウです。翅を開いた大きさは6～7cmで、夏型には翅の後ろに赤い斑があるのが特徴です。長野県では近年になって急速に分布を拡げており、安曇野市では長峰山などで定着していると考えられます。2023年には堀金でも成虫が確認されました。近縁なゴマダラチョウなどの生息場所を奪ってしまう影響が心配されています。

アカミミガメ

北アメリカ原産のカメです。幼体は鮮やかな緑色をしており、「ミドリガメ」の名前でペットとして親しまれてきました。しかし、在来の水草や水生動物への影響などにより、2023年に条件付特定外来生物に指定され、家庭での飼育や捕獲は認められていますが、それらの個体を野外に放つことは禁止されています。

アメリカザリガニ

北アメリカ原産の甲殻類です。市内では一部のため池や用水路などに生息していると考えられます。ペットとしてもなじみの深い生きものですが、生態系全体へ与える影響が非常に大きいことが分かってきました。アカミミガメと同じく条件付特定外来生物に指定され、飼育している個体を野外に放つことが法律で禁止されています。

ニホンジカ

在来の大型哺乳類です。様々な植物を食べるため、個体数の増加に伴う農林業への被害や、生態系への影響が確認されています。市内では東山（豊科・明科）の山林に多く生息していますが、西山（穂高・三郷・堀金）でも個体数が増えており、北アルプスの高山帯への侵入が心配されています。

市内への定着が心配なアライグマ

アライグマは北アメリカ原産の哺乳類で、ペットとして日本に持ち込まれたものが野生化したといわれています。大きさは60～100cmで、目の周りには黒いマスクのような模様があるのが特徴です。

市内では、これまでにアライグマの目撃情報はほとんどなかったのですが、2023年に三郷と堀金で相次いでその姿が撮影されました。

かわいらしい姿のアライグマですが、農作物を食い荒らしたり建物へ入り込んだりと、人にとっては困った動物でもあります。さらに、在来の生きものを食べるため生態系への影響が大きいことから、市内に住み着かないように、生息状況の調査や、住みかになりやすい空き家の管理などの対策が必要です。

身近なところにもいるかもしれません

似ている動物

タヌキ 目よりも下に黒い模様があります。

ハクビシン 顔の中心に白い線があります。

安曇野市の自然環境を守っていくために 市民一人ひとりができること

イラスト：髙橋瑞穂

安曇野市の自然環境、そして豊かな生物多様性を守っていくために、みんなで自然への理解を深め、自然を守るための活動に参加していきましょう。

自然観察会や保全の取り組みに参加しよう！

市内では、環境課や豊科郷土博物館、国営アルプスあづみの公園、長野県烏川渓谷緑地、動植物に関する団体などにより、動植物や自然について学ぶことができる自然観察会が多く開催されています。また、地域住民やNPOなどの団体により、希少な生きものや、草地や水辺の環境などの保全活動が行われており、市はそれらの活動を支援しています。

自然観察会の開催情報や自然環境保全活動の取り組みは、「広報あづみの」や市のHPにある「安曇野エコプラン.net」などで紹介しています。皆さんもこれらの活動に参加してみませんか。

ルーペで花の形を観察中

身近な動物や植物を調べてみよう！

ツバメやタンポポ類など、私たちの身近にいろいろな動植物がみられることは、家の周りの自然が豊かで、私たちも健康で安全に暮らせる場所であることを示しています。

市では2007年から5年に1回、皆さんといっしょに動植物を調べ、市内の自然環境にどのような変化が起きているかを明らかにする「生きもの調査」を実施してきました。2023年には4回目の調査を行っており、調べる動植物や調査方法、今までの調査結果を市HPで紹介しています。

それらも参考にして、皆さんも家や学校の周りにいる動植物がいるか調べてみませんか。

安曇野市生きもの調査の結果などはこちら

みんなで水辺の生きものを調査

生態系への影響が大きい外来生物に注意しよう！

市内では、アレチウリ、オオキンケイギクなどの外来生物が増えつつあり、生態系に大きな影響を与えることもあります。このような外来生物が増えることを防ぐため、身近に外来生物がいないか目を向けるとともに、地域の駆除活動などに参加してみましょう。また、飼育している生き物の取り扱いにも注意が必要です。

レッドデータブックのことを詳しく知りたい方は

PDF版

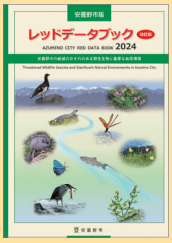
PDF版を市HPに掲載しています。
ダウンロードしてご覧ください。
※2014年版もあわせて公開しています。

安曇野市　レッドデータブック

安曇野市版
レッドデータブックの
閲覧・ダウンロードは
こちら

冊子版

冊子版は、市内の以下の場所でご覧になれます。
●市役所　●図書館
●小学校、中学校、高等学校
冊子版の入手を希望される方には、有料で配布しています。安曇野市市民生活部環境課にお問い合わせください。



＼レッドリスト種・注意すべき種の情報をお寄せください。／

●お問い合わせ
安曇野市市民生活部環境課
〒399-8281　長野県安曇野市豊科6000番地
TEL 0263-71-2000（代表）
https://www.city.azumino.nagano.jp/

2024年10月